

第4章 総合的な学習の時間

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

総合的な学習の時間が創設されて以来、各学校において、地域や学校、生徒の実態等に応じ、横断的・総合的な学習など創意工夫を生かした教育活動が行われてきた。その実施状況を見ると、大きな成果を上げている学校がある一方、当初の趣旨・理念が必ずしも十分に達成されていない状況が見られることなどの課題も指摘されている。

そこで、今回の改訂では、総合的な学習の時間については、基礎的・基本的な知識・技能の定着やこれらを活用する学習活動は、教科で行うことを前提に、体験的な学習に配慮しつつ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動となるよう充実を図ることが求められている。

また、各学校により、総合的な学習の時間において育てようとする資質や能力及び態度も異なることから、各学校において評価の観点や評価規準を設定し、評価活動を適切に進めていくことが必要である。

これらのことを踏まえ、本資料は、学習評価の基本的な考えを基に学習評価の在り方、学習評価計画作成の手順、学習評価の実際などを示した。特に、「中学校学習指導要領」及び「埼玉県中学校教育課程編成要領」並びに「埼玉県中学校教育課程指導資料」の趣旨に基づき、各学校の総合的な学習の時間における適切な学習評価の実施に資することを目的に作成されたものである。

2 取り上げた内容

本資料は、次に示すような第1～第3の内容で構成されている。

第1 「本資料の活用について」

第2 「総合的な学習の時間における学習評価」については、以下の3項目からなる。

- (1) 「学習評価の基本的な考え方」では、教育課程審議会答申（平成12年）等を踏まえ、学習評価の基本的な考え方を示した。
- (2) 「評価の観点の設定」では、今まで示されていた評価の観点例と、新たに加えられた観点例も示し、これらを参考にして各学校に応じた観点を設定することを示している。
- (3) 「学習評価の方法」では、総合的な学習の時間における三つの重要な観点を示した。

第3 「指導と評価の実際」については、以下の6項目からなる。

- (1) 「学習評価計画作成の手順」では、学習評価計画の作成の手順と留意事項を作成の流れに沿って示した。
- (2) 「学習評価計画作成の実際」では、学習指導要領に示された観点例での学習評価計画例を示した。
- (3) 「指導と評価の一体化の事例」では、指導と評価の一体化が図られるよう、以下の三つの基本的な観点的設定事例を示した。
 - ア 学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標に基づいた観点的設定で取り組む事例
 - イ 学習指導要領に示された「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」などの視点を踏まえて設定した資質や能力及び態度に基づいた観点的設定で取り組む事例
 - ウ 教科との関連を明確にした観点的設定で取り組む事例
- (4) 「多様な学習評価の方法」では、多様な学習評価の方法を示すとともに、評価方法の特徴や留意点を示した。
- (5) 「評価記録の累積と活用」では、評価記録簿の作成・記入と累積、記録についての留意点と評価記録簿の例を示した。
- (6) 「総合的な学習の時間の記録」では、生徒指導要録等の記入について例を示した。

3 本資料の活用にあたって

本資料を参考に各学校で、地域や学校、生徒の実態に即した指導と評価の充実が図られるよう以下の点に配慮する。

- (1) 総合的な学習の時間の評価の観点は、各学校において定めた目標、内容、資質や能力及び態度を踏まえて設定することとなっている。よって、記載した事例とともに「学習状況の評価及び指導要録の改善等について（通知）」等を参考にする。
- (2) 多様な学習評価については、六つの評価方法を示したが、評価方法とその位置付け、組合せが重要となる。特に生徒の内にはぐくまれているよい点や進歩の状況などを積極的に評価するために、各学校において、学習評価の一層の充実を図る。
- (3) 学習評価は学習全体を通じて継続的、計画的に行い、累積されるよう、教職員の共通理解を図り評価記録簿の活用に努める。
- (4) 学習評価においては、「生徒の学習状況の評価」「教師の学習指導の評価」「指導計画の評価」が含まれる。総合的な学習の時間では、各学校が目標の実現に効果が上がるよう自律した取組として、これらの改善に努めなければならない。そのために、学校全体の取組として、指導体制の確立を図る必要がある。

第2 総合的な学習の時間における学習評価

1 学習評価の基本的な考え方

総合的な学習の時間の学習評価について、教育課程審議会答申では、次のように述べている。

- 数値的に評価せず、児童生徒のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえ適切に評価する。例えば、指導要録の記載においては、評定は行わず、所見等を記述することが適当である。(平成10年)
- 指導要録の評価は、各教科の学習の評価と同様、観点別学習状況の評価を基本とする。観点は、各学校において指導の目標や内容に基づいて定める。また、児童生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述することが適当である。(平成12年)

また、平成15年の学習指導要領の一部改正において、次のように記述している。

- 各学校においては、学校における全教育活動との関連の下に、目標及び内容、育てようとする資質や能力及び態度、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画などを示す総合的な学習の時間の全体計画を作成する。

さらに、平成20年の中央教育審議会答申で総合的な学習の時間における改善の具体的事項を次のように指摘している。

- 各学校において、育てたい力や取り組む学習活動や内容を、子どもたちの実態に応じて明確に定め、どのような力が身に付いたかを適切に評価する。

総合的な学習の時間の学習評価は、各学校で評価の観点を定め、その観点に基づき生徒の学習状況を適切に把握することはもちろん、学習活動をよりよく改善するものであることを認識することが大切である。また、各学校では、評価規準に即して、学習の成果や生徒のよい点、意欲、態度、進歩の状況などをよく見取り、積極的に評価していくことが必要である。

2 評価の観点の設定

総合的な学習の時間は、各教科等で身に付けた知識や技能を生かすとともに、実社会で活用できる資質や能力及び態度を育成することを目指していることから、各教科の学習評価と同様、観点別学習状況の評価を基本とする。そのため、評価の観点は、各学校において定めた目標や内容、育てようとする資質や能力、態度を踏まえて適切に定めることが大切である。

総合的な学習の時間における評価の観点として、次のような例が示されている。

(1) 教育課程審議会答申(平成12年12月)での例示

- ①学習指導要領に定められた総合的な学習の時間のねらいを踏まえた評価の観点例
 - 課題設定の能力
 - 問題解決の能力
 - 学び方、ものの考え方
 - 学習への主体的、創造的な態度
 - 自己の生き方

- ②教科との関連を明確にした評価の観点例
 - 学習活動への関心・意欲・態度
 - 総合的な思考・判断
 - 学習活動にかかわる技能・表現
 - 知識を応用し総合する能力

- ③各学校の定める目標、内容に基づいた評価の観点例
 - コミュニケーション能力
 - 情報活用能力

(2) 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)(平成22年5月)での例示

- ①学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標に基づいた評価の観点例
 - よりよく問題を解決する資質や能力
 - 学び方やものの考え方
 - 主体的、創造的、協同的に取り組む態度
 - 自己の生き方 等

②学習指導要領に示された「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」等の視点に沿って定めた資質や能力及び態度に基づいた評価の観点例

- 例1 ○学習方法
 - 自分自身
 - 他者や社会とのかかわり
- 例2 ○課題設定の能力(学習方法)
 - 情報収集の能力(学習方法)
 - 将来展望の能力(自分自身)
 - 社会参画の能力(他者や社会とのかかわり)

- ③教科との関連を明確にした評価の観点例
 - 関心・意欲・態度
 - 思考・判断・表現
 - 技能
 - 知識・理解 等

各学校においては、これまで前掲(1)の例示を参考に、各学校で定めた目標や内容、育てようとする資質や能力及び態度を踏まえて評価の観点を設定している。

新しく例示された(2)の評価の観点例では、(1)と関連した観点例も多く見られるが、学習指導要領に示された「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」等の観点例も新たに加えられている。

今後、各学校においては、(2)の①～③の評価の観点例も参考にしながら、それぞれを組み合わせたり、具体化したりして、各学校に応じた観点を設定することが重要である。

3 学習評価の方法

総合的な学習の時間における生徒の具体的な学習状況の評価については、生徒や保護者に信頼される評価としなければならない。そのためには、多様な評価の方法であること、学習状況の過程を評価する方法であることが重要である。

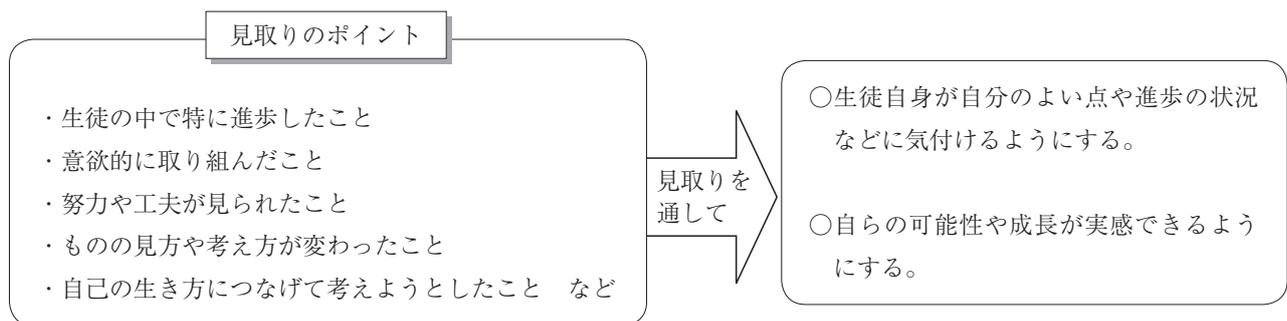
そこで、信頼される評価とするためには、教師の適切な判断に基づいた学習評価が必要であり、著しく異なったり偏ったりすることなく、どの教師も同じように判断できる学習評価が求められる。そのためには、評価規準を共に作成したり、確認したりして、教師間で評価の観点や評価規準について共通理解を図るとともに、具体的な生徒の姿をイメージできるようにすることが必要である。また、学習活動と評価規準に整合性があること、観点ごとの評価の回数に偏りがなく、ある一定程度の時間で評価すること、生徒の多様な姿を評価することなども信頼される評価にとって大切なことである。

次に、多様な評価をするためには、異なる評価方法や評価者による多様な評価を適切に組み合わせることが重要である。例えば、異なる評価方法や評価者による多様な評価の方法として、次のようなものが考えられる。

- (1) 発表や話し合いの様子、学習や活動の状況などの観察による評価
- (2) レポート、ワークシート、ノート、作文、論文、絵などの制作物による評価
- (3) 学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオによる評価
- (4) 一定の課題の中で身に付けた力を用いて活動することによるパフォーマンス評価
- (5) 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価
- (6) 教師や地域の人々等による他者評価 など

なお、多様な評価の方法の詳細については、「4 多様な学習評価の方法」で後述する。

さらに、総合的な学習の時間においては、生徒の内にはぐくまれているよい点や進歩の状況などを積極的に評価することが欠かせない。また、生徒自身が自分のよい点や進歩の状況などに気づき、自らの可能性や成長を実感できるようにすることも重要である。そのためには、次のような視点で生徒の学習の姿や作品、制作物を見取り、汲み取ることが大切である。



また、学習状況の過程を評価するためには、評価を学習活動の終末だけでなく、事前や途中など様々な場面で適切に位置付けて実施することが肝要である。例えば、学習活動前に生徒の実態を把握する、学習活動中や学習活動終末においては、生徒の学習状況の把握をしたり、学習活動の改善を図ったりするなどして、すべての過程を通して、生徒の実態や学習状況を把握し、生徒が学習への取組を見直したり、活動への意欲を高めたりすることができるよう、適切な指導に役立てることが大切である。

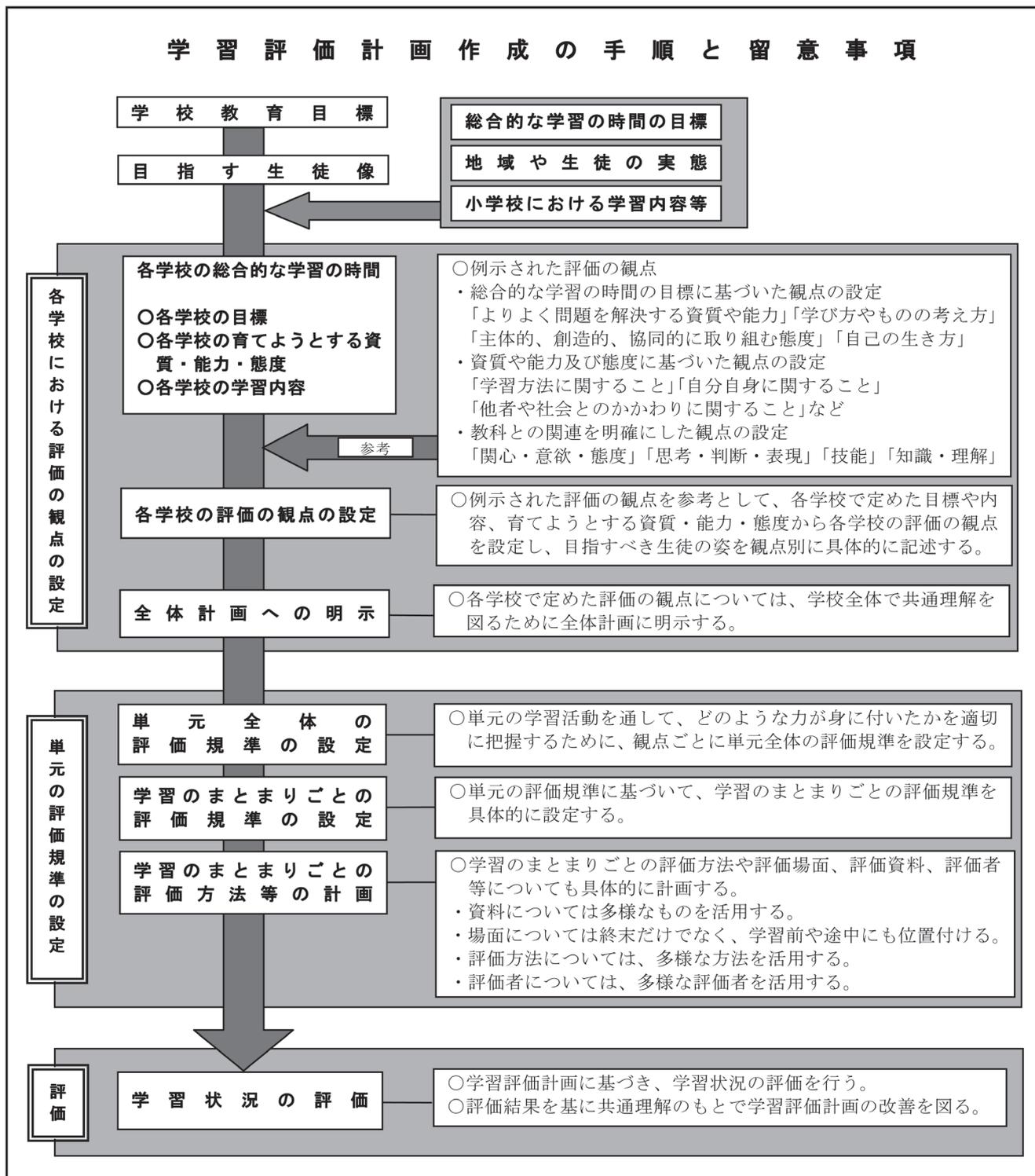
最後に、学習評価の信頼性を高めるためにも、多様な学習評価の方法と学習状況の過程を評価する方法を意識して行い、生徒にはどのような資質や能力及び態度がはぐくまれているのか、生徒は何を学び取っているのかなどについて意識しながら評価を行い、指導と評価の一体化を図ることが重要である。

第3 指導と評価の実際

1 学習評価計画作成の手順

総合的な学習の時間の学習評価においては、育てようとする資質や能力及び態度が適切にはぐくまれ、内容が確かに学ばれているのかを生徒の学習状況から丁寧に見取ることが必要である。そして、その学習評価を指導や学習の改善につなげるため、各学校において適切な学習評価計画を作成して活用するとともに、定期的に見直しを図って改善することが重要である。

また、学習評価計画の作成に当たっては、まず、各学校における総合的な学習の時間の目標や内容、育てようとする資質や能力及び態度を基に、例示された評価の観点を参考として各学校の評価の観点を設定する。次に、各学校が定めた評価の観点に基づいて各単元の評価規準を設定し、さらに学習のまとまりごとの評価規準を観点別に具体的に設定する。その際、評価資料や評価場面、評価方法、評価者等についても具体的に計画することが大切である。



2 学習評価計画作成の実例（学習指導要領に示された「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」などの視点を踏まえて設定した資質や能力及び態度に基づいた観点の設定で取り組む事例）

(1) 評価全体計画例

| | | | | |
|--------------------|-------------------|--|--|---|
| 〇〇中学校の総合的な学習の時間の目標 | | (1) 地域の自然や社会と人々についての探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。 (2) 学び方やものの考え方を身に付け、そこにある問題を主体的に見出し、仲間と協力しながら問題を解決する態度を育て、地域に対する誇りや社会の一員である意識を高め、自己の生き方を考える。 | | |
| 育てようとする資質や能力及び態度 | 学習方法に関すること | ・体験活動などを通して課題を設定し、課題意識をもっている。 ・必要な情報を取り出したり収集したりして、それを整理・分析している。 ・得られた成果をまとめ、判断し、表現している。 | | |
| | 自分自身に関すること | ・探究的な学習活動を通して、自己決定力を身に付ける。 ・自らの学習成果を振り返り、今後の生活に生かすとともに、将来設計能力を身に付ける。 | | |
| | 他者や社会とのかかわりに関すること | ・協同的な学習活動を通して、他者の考えや意見を受け入れ、尊重している。 ・地域社会の課題の解決に向けて自分の役割を自覚し、社会活動に積極的に参画しようとしている。 | | |
| 各 学 年 に お け る 内 容 | | | | |
| 学年 | 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 | |
| 学習課題 | 「地域・環境」 | 「福祉・職業」 | 「国際理解」 | |
| 評価の観点と評価規準 | 学習方法に関すること | ・生活経験をもとに地域や環境に目を向け課題を設定し、課題意識をもっている。 ・課題解決に向けた情報収集の手段に何があるかを考え、適切な方法で情報を収集し、それを整理・分析している。 ・学習の成果や伝えたいことを、分かりやすくまとめ、提言している。 | ・身の回りにどのような職業があるか目を向け、その特徴を様々な角度から調査する活動に関心をもっている。 ・職場体験先で何を学ぶのか課題を設定している。 ・体験を通して学んだことをまとめ、分かりやすく表現している。 | ・自国の文化や外国の文化に目を向け、地域や世界に関する諸問題について必要な情報を収集する。 ・得られた結果を多面的・多角的に分析しまとめ、分かりやすく発表する。 |
| | 自分自身に関すること | ・インターネットや文献などの調査活動や訪問学習を通して、地域や環境問題について考えを深め、自分自身の生活を見つめ直している。 ・地域や環境をよりよくするために新たに自分に何ができるかを考え、実生活に生かそうとしている。 | ・インターネットの文献、身近な人へのインタビューなどの調査活動や体験活動を通して、学ぶことや働くことについて理解し、自己の能力や適性を知ろうとしている。 ・将来に対する夢や希望をもつことができ、それをかなえるために今、何をすべきか考える。 | ・学び方や内容を自分でよく考え、自分の力で解決しようとしている。 ・考察に基づき、国際社会に対する貢献の在り方について考え、行動する。 |
| | 他者や社会とのかかわりに関すること | ・地域社会のすばらしさや問題点を見付け、自分の役割を結び付けて考えようとしている。 ・社会の一員としての誇りをもちより豊かな社会の創造や環境保全のために行動する。 | ・進路選択や夢の実現のために何が必要かを現場で働く社会人から学ぼうとする。 ・働く人たちや友人との協同的な学習活動を通して他者の考えを受け入れて学ぼうとする姿勢をもっている。 | ・国際社会の一員としての自覚をもち、より豊かな社会の創造のために、自分が社会とどうかわっていくかを考え、行動する。 |

(2) 単元の学習評価計画例 - 身近な環境調べ・地域を流れる川の学習 -

| | | |
|---------|---------------------------|--|
| 単元の評価規準 | 学習方法に関する こと | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の身近な環境問題に目を向け、様々な問題や状況の中から適切に課題を設定する。 ・課題解決のために地域から情報を収集し、それを分析している。 |
| | 自分自身に関する こと | <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向け計画的に行動する。 ・環境問題に対する自らの生活の在り方を見直し、改善に向けて日常的に実践しようとしている。 |
| | 他者や社会とのか かわりに関するこ と | <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して調査活動を行ったり、課題解決に向けて協同的な学習活動を行ったりしている。 ・社会の一員としての自覚をもち、地域の環境保全を考えて行動する。 |

| 学習過程 | 活動内容 | 評価の観点と評価規準 | 評価方法 評価資料 評価者 |
|--------|--|---|---|
| 課題の設定 | ○オリエンテーション ・川の再生プロジェクトにかかわった人たちの話を聞く | <ul style="list-style-type: none"> ①学 川にかかわる人の話を聞いたり現地観察を行ったりして、さまざまな問題状況の中から適切に課題を設定している。 | 観察による評価 評価カードによる自己評価 |
| | ○課題の発見 ・地域を流れる川に目を向ける (ゴミ拾い活動や現地観察) | <ul style="list-style-type: none"> ①自 身近な環境問題に関心をもち、自らの課題を明確に設定している。 ②他 課題の設定に当たり、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重している。 | 観察による評価 評価カードによる自己評価 |
| | ○課題の決定 | | 観察による評価 評価カードによる自己評価 生徒間の相互評価 |
| 情報の収集 | ○課題解決に向けての計画立案 ・テーマごとにグループ分け ・情報収集の手段を計画 | <ul style="list-style-type: none"> ①学 課題解決に向けてどんな手段が有効かを考え、その計画を立案した上で情報を収集している。 ②自 課題解決に向けて立案した計画通りに行動しようとしている。 ③他 友達と協力して調査活動を行ったり、地域の人や川にたずさわる人たちの話を聞いたりしている。 | 観察による評価 評価カードによる自己評価 |
| | ○情報収集 ・インターネット、文献 ・現地観察 ・市環境センターや市役所水道課に聞き取り調査 ・地域の人たちへのインタビュー ・パックテストによる水質検査 | | 観察による評価 評価カードによる自己評価 地域の人々による他者評価 |
| 整理・分析 | ○情報の整理 ・得られた情報を整理する | <ul style="list-style-type: none"> ①学 川に生息している生物採取や、いろいろな人への聞き取り調査、水質検査の結果等、情報の整理している。 | 観察による評価 評価カードによる自己評価 |
| | ○情報の分析 ・整理した内容を分析し、考察する | <ul style="list-style-type: none"> ②自 課題解決に向けて考察を行うとともに、自らの川に対する生活の在り方を見直している。 ③他 異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しながら情報の整理・分析を進め、協同して課題を解決しようとしている。 | 観察による評価 評価カードによる自己評価 |
| まとめ・表現 | ○学習成果のまとめ・判断 | <ul style="list-style-type: none"> ①学 分かったことをグラフや表にまとめ、相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。 | 観察による評価 評価カードによる自己評価 |
| | ○発表・展示 ・学年発表会 ・川の掲示板作成、設置 | <ul style="list-style-type: none"> ②自 川をきれいにするにはどうしたらよいかについて、自らの生活を見直し、そのための工夫を日常的に実践しようとしている。 | 制作物による評価 生徒間の相互評価 評価カードによる自己評価 |
| | ○学習のまとめ | <ul style="list-style-type: none"> ③他 川の環境保全を考えて行動し、地域の人々とともに川を守る活動に参画しようとしている。 | ポートフォリオによる評価 評価カードによる自己評価 |

3 指導と評価の一体化の事例

【事例1】学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標に基づいた観点の設定で取り組む事例

評価の観点の設定について

学習指導要領における目標は、(1)横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと (2)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること (3)学び方やものの考え方を身に付けること (4)問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること (5)自己の生き方を考えることができるようにすることの五つの要素から構成されている。

この五つの要素をもとに下記の四つの観点を設定した。

- よりよく問題を解決する資質や能力
- 学び方やものの考え方
- 主体的、創造的、協同的に取り組む態度
- 自己の生き方

1 単元名 三芳町の文化と歴史 (50時間) 第1学年

2 単元について… (略)

3 単元の目標

- ・集団で協力しながら課題を追究したり、発表を分担したりすることを通して、協同的に学ぶ態度を身に付ける。
- ・グループの人たちと協力して情報を収集することを通して、多様な情報を整理できる。
- ・他の人の考えを聞き、自分の考えと比較することを通して、情報を分析したり、考察する。
- ・地域の様々な人と出会い、地域のよさをまとめることを通して、郷土に誇りと愛着をもつ。
- ・課題の設定や探究活動を通して、自分の力で解決していこうとする。

4 単元の指導計画・評価計画

(1) 単元の観点別評価規準

| よりよく問題を解決する 資質や能力 | 学び方やものの考え方 | 主体的、創造的、協同的に 取り組む態度 | 自己の生き方 |
|---|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・多様な方法で、設定した課題を調査する。 ・地域の人々との交流をもとに、他者から学んでいく柔軟な姿勢をもつ。 ・調査を進める中で、さらに課題を深めようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報の中から、課題解決にとって適切な情報を選択し分類整理する。 ・体験・調査によって得た情報を分かりやすくまとめ発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や調査活動に関心をもち積極的に参加する。 ・課題の設定から解決にいたるまで、自分から進んで取り組んでいる。 ・他の人の考えを自分の活動に積極的に取り入れている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他の人の考えを真剣に聞き自分自身の意見を考えている。 ・体験後も地域の人々とのかわりを大切にし、地域の一員としての自覚をもとうとしている。 |

(2) 単元の指導計画・評価計画

| 学習過程 | 時間 | 主な学習活動 | 学習形態 | ◎評価規準の具体例【評価方法】・留意点 |
|------|----|--|--|--|
| 課題設定 | 6 | <ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ・総合的な学習の時間のねらいと進め方を知る。 ・上級生が行った活動例を確認する。 ○講演 ・歴史民俗資料館の方の話から、三芳町の歴史と文化について知り、課題設定のきっかけとする。 ○三芳町めぐり ・地域にある、歴史・文化・自然などを実際にグループで見聞し、興味関心を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> 学年 学年 グループ | <ul style="list-style-type: none"> ・今後の体験活動などに関心をもつようにしていく。 ◎昨年度の資料に関心もち、メモを取ろうとしている。 【観察】【総合的な学習の時間に関する説明プリント】 ◎講演を聞き、三芳町の歴史や文化に関心をもとうとしている。 【観察】【講演に関する生徒の感想】 ◎講演を参考に、体験活動先や取り組む課題について考えようとしている。 【体験活動先希望事前調査】 ◎実際に自分たちで見学に行くことで、三芳町の歴史や文化への関心をさらに高めようとしている。 【観察】【三芳町めぐり報告書】 ・安全に十分配慮し、危険なところに教師が立つ。 |

| | | | | |
|-------------|----|---|------------------------------|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ○体験活動の選択 <ul style="list-style-type: none"> ・八つの体験活動の中から、自分自身の課題を念頭におき、体験先を選ぶ。 | 学年 | <ul style="list-style-type: none"> ◎自分自身が関心の高い課題を絞り込もうとしている。 ◎課題と関係のある体験先を考えている。 <p style="text-align: right;">【体験活動先希望用紙】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験先を考える際、友人関係ではなく、自分自身が興味関心をもった体験先を選ぶよう指導する。 |
| 体験活動 ① ← | 18 | <ul style="list-style-type: none"> ○体験活動の実施（期間は3日間） <ul style="list-style-type: none"> ・活動例 <ul style="list-style-type: none"> 〔竹間沢車人形・お雛子・お茶〕 〔三富と雑木林・昔の暮らし〕 ○体験活動日誌の記入  <p style="text-align: center;">【竹間沢車人形の練習】</p> | グループ | <ul style="list-style-type: none"> ◎グループで協力し、自分の役割を果たす努力をしようとしている。 ◎体験活動先の方の話をしっかり聞き、指示を守ろうとしている。 ◎体験活動に積極的に参加しようとしている。 ◎活動日誌を毎日記入している。 ◎学んだことや考えたことなどを活動日誌に書いている。 <p style="text-align: right;">【体験活動日誌による自己評価】</p> <p style="text-align: right;">【体験活動先の方による他者評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師も分担して、それぞれの体験先に行き、生徒の体験活動の様子を観察する。 【担当教師による観察】 |
| | | ○お礼の手紙の作成 | グループ | <ul style="list-style-type: none"> ◎体験活動で自分自身が学んだことをお礼状の中に書いている。 <p style="text-align: right;">【お礼状】</p> |
| 課題設定 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○個人レポートの作成 ○個人・グループ課題の設定 | 個人 グループ | <ul style="list-style-type: none"> ◎体験活動の中で、自分自身が考えたことや得たことをまとめている。 ◎自分から進んで、課題を考えようとしている。 <p style="text-align: right;">【観察】【個人レポート】</p> |
| 情報収集・整理分析 | 17 | <ul style="list-style-type: none"> ○課題解決のための話し合い <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための、調査方法や調査計画を話し合う。 ○調査活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・体験先の方に話を聞く。 ・現地を調査する。 ・本やインターネットで調べる。 ○調査のまとめ <ul style="list-style-type: none"> ・調査報告をもとに、課題を見直し、さらに調査活動を行う。 ・調査活動をまとめる。 ○発表方法の検討 <ul style="list-style-type: none"> 例〔・模造紙・実演・紙芝居〕 〔・プレゼンテーションソフト〕 〔・ジオラマ〕 ○グループ発表に向けた準備 <ul style="list-style-type: none"> ・発表方法に合うようにまとめたり、発表の練習をしたりする。 ○中間発表会 ○グループでの話し合い ○再調査とまとめ | グループ グループ グループ グループ | <ul style="list-style-type: none"> ◎課題解決に向けて適切な調査方法を選んでいる。 ◎話し合いに積極的に参加しようとしている。 ◎自分の考えを進んで発表しようとしている。 ◎他の人の意見を書き取ろうとしている。 ◎グループで協力して、仕事を進めている。 <p style="text-align: right;">【観察】【調査計画書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎収集した情報を適切に選択し、整理分析している。 <p style="text-align: right;">【調査用レポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎自分の考えを分かりやすくまとめ表現している。 ◎調査・体験の中で、新たな課題を見だし、取り組もうとしている。 <p style="text-align: right;">【調査用レポート】【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎発表方法を工夫しようとしている。 ◎グループで協力して練習を行い、進んで発表しようとしている。 <p style="text-align: right;">【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表方法に合わせたまとめ方を考えさせる。 ◎自分の考えを明確に発表している。 ◎他のグループの発表を真剣に聞こうとしている。 <p style="text-align: right;">【観察】【制作物】【見学者からの相互評価…評価用紙】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎相互評価を参考に、さらに課題を深めようとしている。 ◎グループで協力し合い、本発表に向けて資料を収集し、まとめている。 <p style="text-align: right;">【観察】【制作物】</p> |

【事例2】学習指導要領に示された「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」などの視点を踏まえて設定した資質や能力及び態度に基づいた観点の設定で取り組む事例

評価の観点の設定について

本校の総合的な学習の時間の目標は、「一人一人の生徒が自分の興味・関心に基づいて決めたテーマを追究できる力」「テーマを追究していく過程で様々な人との触れ合いを通して社会性を学び、身に付けていく力」である。この力をはぐくむために、下記の3観点を設定した。

- 学習方法に関すること：課題設定能力、情報収集・活用能力、表現力
- 自分自身に関すること：探究・追究能力、自己決定力
- 他者や社会とのかかわりに関すること：提言力、人とかかわる能力

1 単元名 「アクティブに学ぼう。テーマ学習」(70時間) 第3学年

2 単元について…(略)

3 単元の目標

- ・人間生活を取り巻く様々な問題について興味・関心をもとうとする。
- ・自分なりに課題を見付け、問題解決に意欲的に取り組もうとする。
- ・自分の考えを発信提言し、実践を通して広く社会に貢献していこうとする。

4 単元の指導計画・評価計画

(1) 単元の観点別評価規準

| 学習方法に関すること | 自分自身に関すること | 他者や社会とのかかわりに関すること |
|--|--|--|
| ・様々な課題から自分の興味・関心をもとに適切な課題を見だし、情報や資料を主体的に収集・選択し、表現方法を工夫しようとする。 ①課題設定能力 ②情報収集・活用能力 ③表現力 | ・主体的に学習しようとする意欲を持ち、解決の方法を工夫し、実践的に研究しようとする。 ・学習の成果から自己の生き方を考え課題解決のために実践的に行動しようとする。 ④探究・追究能力 ⑤自己決定力 | ・他の意見を尊重し、自分の考えをまとめ、提言し、これからの生活に生かそうとする。 ・協同的な活動を通して自分のできる社会活動を考え実践しようとする。 ⑥提言力 ⑦人とかかわる能力 |

| | | |
|-------|------------|--|
| 学習方法 | ①課題設定能力 | ・これまでの学習を生かし、より社会と自分の問題として課題設定をする。 |
| | ②情報収集・活用能力 | ・目的に応じて情報を収集し、自分なりの分析をし問題解決をしようとする。 |
| | ③表現力 | ・相手や目的、意図に応じた表現方法や発表方法を工夫して発表しようとする。 |
| 自分自身 | ④探究・追究能力 | ・課題解決に向け、方法を工夫し、実践的に研究しようとする。 |
| | ⑤自己決定力 | ・学習の成果から自分の生き方を考え、実践的に行動しようとする。 |
| 他者や社会 | ⑥提言力 | ・他の意見を尊重し、自分の考えをまとめ、提言し、これからの生活に生かそうとする。 |
| | ⑦人とかかわる能力 | ・協同的な活動を通して自分のできる社会活動を考え実践しようとする。 |

(2) 単元の指導計画・評価計画

| 学習過程 | 時間 | 主な学習活動 | 学習形態 | 評価規準の具体例 | 【評価方法】 | ・留意点 |
|-----------|----|---|------------|--|--------|------------------|
| | | | | 学 自 他 | | |
| 全体 OL | 2 | ○「総合的な学習の時間」の目的、進め方を知る。 ○先生方の得意分野について知る。 ○前年度の代表生徒の発表を聞く。 | 全学年 | ・これからの学習に対する興味を高めるため、前年度の実践を紹介し、学習に対する心構えをつくる。 学①自分なりの学びを見つけ出そうとする意欲をもっている。 | | 【ワークシート】 |
| 学級別 OL | 2 | ○担当者(3クラスの担当5名)について知る。 ○諸届けや電話のかけ方、インターネットの使い方の確認、校外活動、新聞活用について知る。 ○コンピュータ室や図書室の利用、「学習記録カード」の書き方について知る。 | 縦割り 3学級 | ・縦割り3学級でクラス編成している理由を説明し、その意義を理解させる。 ・自主的に学習が進められるよう、教師中心にプレゼンテーションを行う。 ・学習の基本的ルールを身に付けさせるために、諸届け等について説明する。 学②自主的に学習が進められるよう、学習のルールを身に付けている。 | | 【観察、学習記録、ワークシート】 |

| | | | | |
|---|---|--|---|--|
| プレゼンテーション学習 | 2 | ○著作権の学習、NIE、レポート、新聞、模造紙、プレゼンテーションソフトなどを活用するまとめ方や分かりやすい発表方法などを3年生が中心となり下級生にレクチャーする。 | 縦割り 3学級 | ・3年生の代表クラス5～10名を事前指導し、下級生へのレクチャーを準備させる。 学③機器の使い方を身に付け、表現力、プレゼンテーション能力を高めようとしている。【観察】 |
| | 6 | ○グループごとに5領域(環境、福祉健康、国際理解、情報、郷土)からテーマ設定をし、NIE、レポート形式、新聞形式、模造紙にまとめたり、プレゼンテーションソフトなどを活用したりして、協力しながらまとめ発表する。 | 異学年編成 5クラス グループ (4～5人) | ・中心となる3年生を事前指導しておく。 学②いろいろなプレゼンテーションの方法を知り、情報の収集、発信の基本的な技能を身に付け、活用しようとしている。【観察】 他⑦仲間と協力し、進んで自分の役割を果たそうとしている。【観察、作品】 他⑦他者の意見を聞きながら自分の意見をもとうとしている。【学習記録】 |
| 体験的学習会 | 2 | ○外部講師を招き、体験的な学習を行う。 ○全校一斉での体験的学習と選択コースを設け、それぞれの講座に分かれて学習する。 ＜活動例＞ 全体会：手話講座、ユニセフ 選択コース：保険の仕組み、ゴミ問題、外国人から学ぶ、渋滞の謎、新聞記者に聞くなど ○お礼の手紙を書く。 | 全校 コース別  | ・5領域の中でコース設定し、前年度のテーマの傾向を踏まえ、生徒のテーマ設定に役立つよう配慮する。・各コースごとに、担当者が講師の方々と綿密な打ち合わせを行う。 他⑦進んで地域の方や講師の方と触れ合う機会をもち、体験活動の大切さを学ぼうとしている。【感想用紙、観察、講師の方の感想】 自⑥興味・関心に応じてコースを選択し、今年度の学習に対する考えを広げようとしている。【観察】 |
| ホーム学習 課題設定 | 6 | ○個人テーマを設定する。 ○互いにテーマを発表し合い、教師と面談をしたり、必要に応じて修正したりして、年間の活動計画を作成する。 ○互いのテーマと活動予定を発表し合う。 | 1年単独クラス (TT) 2、3年編成 3クラス・個人 | ・体験的学習での発見や疑問などを出し合い、問題意識を高め、課題づくりに生かすようにする。 ・年間の活動の中に、必ず校外活動や体験的な活動の計画を盛り込み、作成するように助言する。 学①自分を取り巻く環境や社会の中から課題を発見しようとしている。 【ワークシート、学習記録、シラバスの自己評価】 学①自分の興味・関心に応じたテーマを設定し、学習計画を作成している。【年間計画書、学習記録】 学③発表活動を通して、自分の考えを表現している。【発表原稿、観察】 |
| 夏休み・個人テーマをもとにグループや個人で体験的な活動や校外活動から調査を行う。 ・新聞記事の収集 ・夏休みの活動報告書の作成 | | | | |
| テーマ学習 情報収集・整理分析 | 2 | ○テーマごとにクラス編成する。 ○夏休みの活動報告会を行う。 | 異学年編成クラス 個人またはグループ | ・様々な活動報告を聞き、今後の活動の参考にできるようにする。 ・前期の評価を文章で入力し、保護者にも伝え意欲を高める。 学③発表活動を通して、自分の考えを表現しようとしている。【活動報告書、観察】 |
| | 4 | ＜さわやか活動＞ ○校区を19カ所に分け、自分でできるボランティア活動を行う。 ＜ふるさと講演会＞ ○講師を招聘し、ふるさとにかかわる話を聞く。 | 全学年 | 他⑦進んで、地域の方とかかわることができ、何らかの形で貢献しようとする。【感想用紙、自己評価】 |
| | 8 | ○自分の学習計画に基づいて、個人またはグループで次のような活動を行う。 【調査活動、校外活動や体験活動等、見学・インタビュー等、外部講師の招聘等】 ○情報の整理、分析を行う。 | 環境、福祉健康、国際理解、情報、郷土の五つのクラスに分かれる | 自④自分のテーマについて、主体的に学習しようとする意欲をもち、解決の方法を工夫しようとする。【観察、学習記録】 他⑦必要に応じて訪問や相談、話し合い活動などを行い、実践的に研究しようとしている。【観察、学習記録】 学②課題に迫るための情報収集や分析・整理をしようとする。【観察、学習記録】 |
| | 6 | ○調査した内容をまとめる。 | | ・本発表を意識させ、調査したものを分かりやすく伝える表現方法を考えるようにする。 |

| | | | | |
|------------------|----|---|---------------|--|
| | 2 | ○中間発表会を行う。 | 5クラス | ・発表を聞き、今後の調査活動の参考にできるようにする。 学③発表活動を通して、自分の考えを表現しようとしている。【発表原稿、観察】 自④他の発表を参考に自分の取組を見直そうとしている。【相互評価、学習記録、観察】 |
| | 8 | ○設定したテーマについて、新たな課題や計画の見直しを行い、さらに情報収集を行う。 | 5クラス | ・一人一人と対話し、年間計画の見直しを行う。 自④助言を受けた点や新たな課題を整理し、さらに課題を追究しようとする。【ポートフォリオ評価、シラバスの自己評価、年間計画書、学習記録】 他⑦必要に応じて訪問や相談、話し合い活動などを行い、実践的に研究しようとする。【観察、学習記録】 学②課題に迫るための情報収集や分析・整理しようとする。【観察、学習記録】 |
| ジョイント学習 まとめ表現 | 14 | ○領域ごとのクラス編成から、発表のためのクラス編成をし直す。 ○情報を整理、分析し、まとめる。 ○発表方法を工夫し、これまでの成果を約10分程度で発表する。  | 異学年編成 5クラス | ・テーマ学習の評価を文章で入力し、保護者にも伝える。 ・表現方法を工夫し、分かりやすい発表にさせる。 学③自分の研究結果を深く考察し、より有効な情報発信手段を用いて表現しようとする。【観察、作品、学習記録】 他⑥学習の成果から、これからの生き方を考え、提言しようとする。【観察、発表原稿、学習記録】 他⑥他者の意見を聞きながら自分の意見をもつことができる。【観察、相互評価用紙、学習記録】 |
| | 2 | ○学んだことや感じたこと、考えたことをまとめる。 ○自分の活動を振り返る。 ○ポートフォリオの整理 ○縦割りクラスでのまとめを行う。 | 縦割り 3学級 | ・互いの発表についてメッセージ交換を行い、他者の意見を知る。 自⑤今年度の自分の活動を振り返り、今後自分のできる社会活動を考え実践しようとする。【自己評価用紙、相互評価用紙、観察、ポートフォリオ評価】 |
| 学習発表 | 4 | ○全体発表会・・・全校一斉で代表生徒10組の発表、感想発表等を行い、1年間の学習成果をつなげ合い、学習の共有化を図る。 | 全学年 | ・学習内容を全校生徒が共有化し、自分の学習を深められるようにする。 ・保護者や地域の方にも参加していただく。 他⑦他者の発表のよさに気付き、今後の自分の活動の参考にする。【感想用紙、学習記録】 |

5 指導と評価の実際

| 個人の学習活動 | 教師の指導 |
|--|--|
| ウェビングを行い、テーマを考えたがあまり広がらない。興味のある野球のことにしようと思う。 | 3年間、部活で野球をやっているいろいろ知っていると思うけれど、さらに何について知りたいの？ |
| 毎日外で部活動をしているので、ひどく日焼けをしている。日焼けのことにについて調べたい。どうして日焼けをするのか。日焼けの効果、予防法、日焼け止めの選び方、など。 | 疑問がたくさんありますね。整理しながら年間活動計画を立てよう。一つ一つの課題をどう方法で調べていきますか？インターネットで調べるだけでなく、人に聞いたり、アンケートを取ったり実態調査をしてみよう。 |
| 予防や病気の薬がたくさんあることは分かったけれど、どれを選んだらよいか分からない。 | 薬局に行って調査してみたら？知りたいことをまとめて、アポイントメントを取ってから行ってみよう。 |
| レポートにまとめるが、調べたことをそのまま書いている。 【生徒の感想】 緊張したけど、自分が調べたことをしっかり発表することができた。みんなの発表も興味を引くものがたくさんあって聞いていて楽しかった。 | 必要なことだけを抜き出してまとめてみよう。図にしたイラストを取り入れたりすると分かりやすいよ。実物や写真などがあると興味をもって見てもらえるよ。 |

【事例3】教科との関連を明確にした観点の設定で取り組む事例

評価の観点の設定について

本校では総合的な学習の時間の目標を「各教科等の学習で身に付けた知識や技能を生かし、今日的な課題について、体験的な学習や問題解決的な学習を通して追究することによって、主体的・創造的に問題解決や研究活動に取り組む能力と態度を身に付け、自己の生き方を考えることができる力を身に付ける。」として取り組んでいる。総合的な学習の時間の評価の観点については、各教科の評価の観点との関連を明確にし、学習活動にかかわる次の4観点で評価することとした。

- 関心・意欲・態度 ○ 思考・判断・表現
- 技能 ○ 知識・理解

1 単元名 福祉交流—共に生きていくには— (70時間) 第2学年

2 単元について… (略)

3 単元の目標

- ・ 様々な人との交流や調査活動を通して、福祉についての関心をもとうとする。
- ・ 幅広い視点をもって、共に生きていくために必要なことを考え、表現する。
- ・ 共に生きるという観点で自分にできることを実践しようとする。
- ・ 福祉・交流に関する正しい知識をもとうとする。

4 単元の指導計画・評価計画

(1) 単元の観点別評価規準

| 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技 能 | 知識・理解 |
|---|---|--|---------------------------------|
| ・福祉についての関心を高め、様々な人との交流や調査活動に意欲的に取り組もうとする。 | ・幅広い視点をもって福祉交流について考え、共に生きていくために必要なことが考えられる。 ・自分の考えを適切な方法を選択して、分かりやすく伝える。 | ・社会に生きる全ての人々がよりよく生きるために自分にできることを考え実践する。 ・高齢者や障がい者、幼児に対して自分の気持ちを表現し適切な交流をする。 | ・福祉交流に関する正しい知識をもち、様々な人の心情を理解する。 |

(2) 単元の指導計画・評価計画

| 学習過程 | 時間 | 主な学習活動 | 学習形態 | ◎評価規準の具体例 【評価方法】 ・留意点 |
|------|----|--|------------|--|
| 共習講座 | 10 | <ul style="list-style-type: none"> ○福祉について考える。 ○この講座のねらいを確認する。 ○「高齢者福祉」についてのビデオを視聴し、現状や概要を学ぶ。 ○幼児教育について外部講師の話を聞き、現状や概要を学ぶ。 ・「福祉講演会Ⅰ」の実施 ○障がいのある人達の話の聞き、現状や自分たちができることの概要を学ぶ。 ・「福祉講演会Ⅱ」の実施 ○手話と点字について体験活動を行う。 ・福祉体験スクールの実施 ○「ボランティア活動」のビデオを視聴し、現状や概要を学ぶ。 ○校内でのボランティア活動実践 ・除草活動、校内美化活動等 | 2クラス 合同 | <ul style="list-style-type: none"> ・共習講座では、「福祉交流」に関する一般的な内容を学習する。共習講座の学習から興味関心をもった課題やもっと深く調べてみたい課題を見付け、この後に行う実践講座で各自の課題設定が適切に行えるようにする。 ・福祉の内容を、「高齢者福祉」「児童福祉」「障がい者福祉」「ボランティア」の四つの内容に分け、それぞれについて、講話を聞いたり、体験学習を行ったり、ビデオを視聴したりして、福祉交流について興味関心をもち、正しい理解がもてるようにする。 ◎それぞれの活動に興味関心をもち、意欲的に取り組もうとしている。 【観察】 ◎福祉交流について正しい理解をもつ。 【観察】【ワークシート】 |

| | | | | |
|-----------------------------|----|---|------------------|---|
| ガイダンス | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○実践講座の選択ガイダンス ・実践講座の目的、概要、計画について理解する。 ・各実践講座の説明を聞き、自分に合った講座を選択する。 | 学年 | <ul style="list-style-type: none"> ・講座の概要を説明した後、生徒の学習相談に乗る。 ◎自分の興味・関心・適性に合った講座の選択をする。 【観察】 |
| 課題設定 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ○各自のテーマを決める。 ・自分が調べてみたいテーマについて設定理由、調査方法なども考える。 | 講座 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、この講座に対する心構え、見通しをもてるようにする。 ◎自分の取り組んでみたい課題を具体的に考え、調査計画を立てる。 【ワークシート】 |
| 情報収集 体験学習 整理分析 まとめ | 46 | <ul style="list-style-type: none"> ○グループごとに校外活動について計画を立てる。 ・校外活動の認められる手順 ・アポイントメントの取り方、電話のかけ方、訪問時のマナー ・安全上の注意 ○個人、グループにおける調査、研究、訪問などの活動を行う。 ・相手先への連絡や準備活動 ・図書室、コンピュータ室などを利用した調査 ・現地での調査、施設への訪問活動 <主な訪問先（予定）> 高齢者福祉：老人ホーム、社会福祉協議会など 児童福祉：児童相談所、子どもスマイルネット、幼稚園・保育園など ボランティア：市民活動センター、埼玉国際交流協会、ユニセフなど 障がい者福祉：ふれあいプラザ、特別支援学校など ・外部講師の話聞く。 ○発表に向けた準備をする。 ・レポート、掲示物、資料づくりなど | グループ 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場を考えた行動がとれるようにする。 ◎校外活動を行うに当たって大切なこと、注意しなければならないことを理解する。 【観察】 ・訪問先と綿密な連絡をとり、訪問先での内容等を事前に打ち合わせしておく。 ・訪問先での内容に応じて必要な準備をし、内容が充実したものになるようにする。 ・教員の配置は、訪問先を回る教員が4名、事務室待機が1名を基本とし、緊急体制をつくる。 ◎準備や体験活動に意欲的に取り組み、積極的に課題解決に取り組もうとする。 ◎訪問先の人々に対して適切な態度で接する。 【観察】【レポート】 ・活動が目的でなく、活動を通して何を感じたか、何を学んだかを大切にさせる。 ◎様々な人との交流を通して、相手の気持ちを理解し、自分はどの行動すべきだったか考える。 【観察】【レポート】 ◎計画に基づき、調査したり、体験したりしたことを研究テーマに迫る内容にまとめている。 【レポート】【掲示物等作品】 ◎研究の成果を分かりやすく伝えるために、発表の方法を工夫している。 【レポート】【掲示物等作品】 |
| 学習発表会 | 8 | <ul style="list-style-type: none"> ○個人、グループの発表をする。 ・質疑応答 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">ハーフトライアルデー</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">学習成果発表会</div> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会の相互評価表の記入 | 講座 グループ 個人 | <ul style="list-style-type: none"> ・互いの報告を聞くことによって、互いの知識や感じたことを共有し合えるようにする。 ◎相手に正しく理解できるような発表する。 【発表用レジュメ】【掲示物・作品】 ◎他のグループの内容を正しく理解し、幅広い視点で福祉、交流を考えることができる。 【相互評価表】 |
| 振り返り | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ○まとめをする。 ・個人レポートの提出、アンケート記入 | 個人 講座 | <ul style="list-style-type: none"> ◎福祉に対する自分の考えを深めている。 【個人レポート】【アンケート】 |

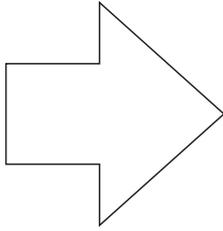
5 指導と評価の実践

【ポートフォリオ作成の仕方】

T-ファイルについて

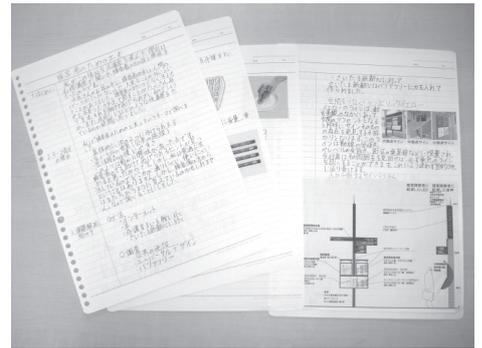
～このファイルに何をいれよう～

- T-ファイル(附中トライアルファイル)とは?**
 - 自分の学習の成果や学習の過程での記録から、自分の学習活動を記録し、自分自身の成長や学習の達成度を振り返るファイルです。
 - 担当の先生が集めて、みなさんの成長や達成度を評価(判断)する資料となります。
- T-ファイルに入っているもの**
 - A4ファイル1冊、ルーズリーフ、クリアポケット、仕切り(タイトル記入用)
 - ※自分のロッカーに入れておこう!
- T-ファイルにファイルしよう!**
 - ①自分の得意
 - レポート、本、作文、ポスター、学習成果の発表(CD録音、演劇など)を収録したテープ、写真など。
 - ※完成した作品はもちろん、作成中の作品もこのファイルで保管します。
 - ②完成品をつくるまでに集めた資料や記録
 - 授業中に配布されたプリント、集めてきた資料、インターネットで検索した情報を印刷したもの、新書や雑誌の切り抜き、複製、録音、下書き、ちょっとしたメモ、手紙、読書リスト、インタビューの記事、活動を記録したテープなど。
 - ③自己評価の記録
 - ワークシート、反省、点検シート、チェックリストなど。
 - ④他の人からの評価の記録
 - ア、先生との話し合いや評価の記録
 - イ、仲間との話し合いや評価の記録
 - ウ、保護者や地域の人などの話し合いや評価の記録



【ファイルに集められた資料】

1年間の学習の成果を蓄積していく。



【発表会用掲示物の例】



【発表会 相互評価表】

| 発表者 | タイトル | ★★★★★ | ★★★★☆ | ★★★☆☆ | ★★☆☆☆ | ★☆☆☆☆ | 感 謝 |
|------|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------------|
| 15 席 | A 下野 朝イリスについて | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | スライドの枚数が少な過ぎる事が多かった。 |
| 16 席 | C 藤井 バリアフリー | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 新築ではバリアフリーが当たり前! |
| 17 席 | D 小玉 養護 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | ユニバーサルデザインは身近なところから |
| 18 席 | C 藤井 バリアフリー | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | ユニバーサルデザインは身近なところから |
| 19 席 | A 結城 働く動物 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | 地図が良かった。(4/5回) |
| 20 席 | B 塚 養護や雇用 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | ユニバーサルデザインは身近なところから |
| 21 席 | B 小島 日本福祉の発展点 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | ユニバーサルデザインは身近なところから |
| 22 席 | D 大谷 盲導犬について | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | ユニバーサルデザインは身近なところから |
| 23 席 | B 永井 盲導犬について | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | ユニバーサルデザインは身近なところから |
| 24 席 | D 成美 盲導犬について | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | ユニバーサルデザインは身近なところから |
| 25 席 | D 赤井 養護施設と社会 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | ユニバーサルデザインは身近なところから |
| 26 席 | D 藤井 養護施設のために | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | ユニバーサルデザインは身近なところから |
| 27 席 | B 佐藤 福祉施設と施設等 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | ユニバーサルデザインは身近なところから |
| 28 席 | B 水野 障壁のある子ども | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | ユニバーサルデザインは身近なところから |

発表会を終えて(感想や自分の進歩について)

今回の発表会は障壁のある人達のためにいろいろな工夫がされていることがあった。バリアフリーとユニバーサルデザインの違いが分かるようになった。ユニバーサルデザインは身近なところから知ることが出来る。発表は写真を見せる時間が良かったと思う。

評価の観点を明らかにすることで、適切な自己評価・相互評価ができる。単元の目標から「発表は分かりやすいか」「発表に工夫がされているか」(思考・判断・表現)、「自分の意見が言えているか」(技能)を評価している。感想などの自由記述欄から、今後の実践的な態度を評価することが大切である。

【学習のまとめのアンケート】

「附中トライアル」アンケート(実践講座)

2年 組 男 番 氏 名 _____

講座名 福祉交流 講座

- 学習活動について
 - ① 講座の活動が意欲的に取り組めた。

| | | | | |
|-----------|----------|-------|--------------|-------------|
| とても意欲的だった | やや意欲的だった | 普通だった | あまり意欲的じゃなかった | 全く意欲的じゃなかった |
|-----------|----------|-------|--------------|-------------|

 その理由を具体的に書いてください。
興味のある課題を設定したのだから、から応じて活用していました。
 - ② 講座の目的に興味や関心が持てた。

| | | | | |
|-----------|----------|-------|-----------|----------|
| とても興味があった | やや興味があった | 普通だった | あまり興味なかった | 全く興味なかった |
|-----------|----------|-------|-----------|----------|

 どんな興味や関心を持ったかを具体的に書いてください。
障壁のある人達の生活は、開くようにして、その上で不便を感じないような環境のバリアフリーについての理解を深めた。その中で
 - ③ もっと知りたいことがあった。

| | | | | |
|---------|-------|-------|---------|--------|
| たくさんあった | 少しあった | 普通だった | あまりなかった | 全くなかった |
|---------|-------|-------|---------|--------|

 知りたいことを具体的に書いてください。
バリアフリーを詳しく知りたい場所は、それは何処にあるのか、どうやってするのか。
 - ④ 自分の得意を生かし、工夫して解決できた。

| | | | | |
|------------|-----------|-------|------------|-----------|
| とても得意を生かした | やや得意を生かした | 普通だった | あまり得意を生かした | 全く得意を生かした |
|------------|-----------|-------|------------|-----------|

 どんな工夫だったのか、具体的に書いてください。
できたらたくさん資料を読んで、理解を深めた。
 - ⑤ この講座を通して新しく身につけたことがあった。

| | | | | |
|-----------|---------|-------|-------------|------------|
| たくさん身につけた | 少し身につけた | 普通だった | あまり身につけなかった | 全く身につけなかった |
|-----------|---------|-------|-------------|------------|

 新しく身につけたことを具体的に書いてください。
どうしたら、町を歩いているときも、障壁があるかどうかなどの視点を、持つようになった。
- 2 講座の内容について
 - ① この講座の内容をどう感じますか。

| | | | | |
|-----------|----------|-------|-----------|----------|
| とてもよかったです | ややよかったです | 普通だった | あまりよかったです | 全くよかったです |
|-----------|----------|-------|-----------|----------|

 その理由を具体的に書いてください。
友人はあまり深く考えない分野の社会問題などを考え、受けました。
 - ② 学習を通して、自分の生き方について感じたり、考えたりすることがありましたか。(今後の自分の進路や自分の生活について)

| | | |
|----|-----|-----------|
| はい | いいえ | どちらとも言えない |
|----|-----|-----------|

 「はい」を選んだ場合は、具体的に書いてください。
はい
- 4 実践講座でやりたいと思ったこと、「達成感高い」はどうでしたか。理由も添えて書いてください。

達成感にはまあまあいいけど、まだテーマはバリアフリーにもっとはあきらまないと、かたやこれは可能なのかもしれないと思った。今の段階ではこれは無理な質問ではないけれど、質問内容が、何かユニバーサルデザインの出来たというのに、なりました。それに、面白い結果でしたが、テーマは少し変わりました。

学習の最後に行うアンケートでは、総合的な学習の時間のねらいに迫ることができたかを確認する。指導計画・評価計画が適切であったかを検証し、改善を図っていくことが大切である。

(4) **パフォーマンス評価**

一定の課題の中で身に付けた力を用いて活動することを通して、その力を評価する方法である。課題解決の場面において、身に付けた力を複合的に活用する姿を見取る評価ともいえる。

○パフォーマンス評価を活用すれば

- ・ウェビング、成果をまとめたレポートやポスター、発表やインタビューなど実際に発揮している力を総合的に見取ることができる。
- ・生徒が自分で導き出した考え方、作り出した作品や解決の姿などから、個性や創造性を評価し、認めることができる。

※留意点として

身に付けた力を発揮し学習活動に取り組む生徒の姿について、おおむね満足できる状況を具体的にイメージしておくことが必要である。

(5) **自己評価や相互評価**

自己評価とは、評価カードや学習記録などから、生徒が学習の状況を振り返り、活動へ取り組む態度や状況などを自ら評価する方法である。また、相互評価とは、生徒が互いの学習状況を評価し合う方法である。

○自己評価や相互評価を活用すれば

- ・生徒自身ができるようになったことを明確につかみ、自己の高まりや成長といった変容を実感し、学習意欲の向上に結び付けることができる。
- ・自己評価能力や他人の評価を受け止める力の育成にもつながる。

※留意点として

自己評価では、生徒によっては自分に厳しすぎたり甘すぎたりするなど、偏ったものになりやすい。そのため、互いの評価を確認し合う相互評価を組み入れ、自己評価することが必要である。自己評価カードや振り返りカードに記述するだけでなく、授業中の発言やノートから自己の学習状況を確認し、その後の学習の見通しを自分で考えさせたい。また、相互評価を取り入れることにより、今まで気付かなかった自分のよい点や問題点を把握できるようにする。

【相互評価の例】

- ① 自分が今まで取り組んできた学習を、グループの中で発表する。
- ② 互いのよい点や工夫が必要な点を「色別評価カード」に記入して、発表者に渡す。

【色別評価カード】

| | |
|------------------------|-------------------|
| ポートフォリオについて () さんへ | 発表について () さんへ |
| 生き方について () さんへ | 取組について () さんへ |

- ③ 友達からもらった評価カードを参考に、自分自身の今までの学習を振り返る。

(6) **他者評価**

教師や地域の人々などによる評価の方法である。

○他者評価を活用すれば

- ・生徒の学習の様子が多面的に映し出され、教師が気付かなかった点を補うことができる。
- ・生徒への励ましが期待できる。
- ・自分たちのやったことが認められ、成就感や自己肯定感にもつながる。

※留意点として

評価者に対して、学習活動の趣旨やねらいなどを事前に伝え、十分な理解を得ておく必要がある。地域の人々や保護者等に対しては、どの機会にどのような方法で評価してもらうか、年間を見通した学習評価計画を立てておくことが大切である。

5 評価記録の累積と活用

(1) 評価記録簿の作成、記入と累積、活用について

評価記録簿の作成、記入、累積、活用については、教職員の共通理解を図り、次のような点を留意する必要がある。

ア 評価記録簿の作成、記入に当たって

- ・自校の総合的な学習の時間の観点に基づき、学習の成果、生徒のよい点、意欲・態度、進歩の状況などを記入する。
- ・単元全体を通し、様々な観点で評価できるように努める。
- ・評価の観点を、1時間単位ですべて評価するのではなく、学習のまとまりの時数の中において評価するように心がける。
- ・評価を学習活動の終末だけでなく、事前や途中で適切に位置付けて実施する。

イ 評価記録の累積に当たって

- ・一人の生徒に対して複数の教師が携わることがあるため、評価記録等をパソコンに書き込むなどして、共有できる状態にすることが必要である。
- ・生徒の学習活動を、時系列で累積することにより、1年間（又は3年間）の具体的な学習が把握できるようにする。

ウ 評価記録簿の活用にあたって

- ・累積された評価の結果を通信簿にまとめ、生徒や保護者に伝えるようにする。
- ・評価記録簿を学習相談などに用い、生徒の指導に生かすようにする。
- ・評価記録簿は、次年度に引き継ぎ、学習活動の参考資料にする。

(2) 評価記録簿の例

ア 体験活動の記録簿の例

| 学年 | 学級 | 番号 | 氏名 | 性別 | 担当教師 | 活動内容 | 活動日 | 時間数 | 評価の観点 | | | 生徒の活動状況 | 顕著な活動 |
|----|----|----|------|----|------|----------|-----------------|-----|---------|---------|----------|-----------------------------|-------------------|
| | | | | | | | | | 問題解決の能力 | 学び方・考え方 | 主体的創造的態度 | | |
| ○ | ○ | ○ | ○○○○ | ○ | ○○○○ | 施設での介護体験 | 月 日 ～ 月 日 | 時間 | | ○ | | 自分も将来、高齢者になるという意識をもって取り組んだ。 | |
| □ | □ | □ | □□□□ | □ | □□□□ | 施設での介護体験 | 月 日 ～ 月 日 | 時間 | | | ○ | 質問事項をノートに整理し、積極的に質問した。 | 施設の方から、積極性が評価された。 |

【留意事項】

- ・自校の評価の観点に基づいて、生徒の活動状況を記入する。
- ・顕著な活動の欄には、生徒のよいところをできるだけ多く見付け記入する。

イ 制作物等の記録簿の例

| 学年 | 学級 | 番号 | 氏名 | 性別 | 担当教師 | 活動内容 | 活動日 | 制作物等 |
|----|----|----|------|----|------|------------|-----------------|----------|
| ○ | ○ | ○ | ○○○○ | ○ | ○○○○ | 環境保全ポスター作り | 月 日 ～ 月 日 | 写真を貼り付ける |

6 総合的な学習の時間の記録

総合的な学習の時間の記録については、この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。なお、生徒指導要録においては「総合的な学習の時間の記録」の欄に書ききれない場合には、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄にも記入することができる。

| 総合的な学習の時間の記録 | | | | 総合所見及び指導上参考となる諸事項 | |
|--------------|-----------|------------|---|-------------------|------|
| 学年 | 学習活動 | 観 点 | 評 価 | 第2学年 | 第3学年 |
| 1 | 三芳町の文化と歴史 | 学び方やものの考え方 | ・お雛子が地域の伝統文化として継承されている理由について、地域の方にインタビューしたり、文献を調べたりして、考えを深めていた。 | | |